

地域活性化に向けた観光資源と関係人口へのアプローチ 宮城ゼミナール

文責者：2年 橋本郁弥 蒲生将由 伊木陽菜 河嶋慶太 三間帆風 藤田祥奈

1. 活動目的と活動対象（奈良県葛城市）

私たち宮城ゼミナールは、社会現象の一つである高齢化による人口減少に伴う地方の過疎化を改善するための第一歩として、その問題に直面している奈良県葛城市を対象に、地域活性化を目的として活動している。

2. 葛城市の概要

葛城市はかつて新庄町と當麻町に分かれていたが、2004年（平成16年）に新庄町・當麻町が合併して発足した。葛城市は古くより、豊かな自然と、歴史と文化の薫り高い町として輝いてきた。観光地やその施設において「雰囲気は重要な要素であるが、葛城市には国宝・當麻曼荼羅をはじめ数多くの国宝や重要文化財を伝える當麻寺（写真1）、日本最古の官道である竹内街道など歴史的な文化財特有の雰囲気を



写真1 當麻寺
(葛城市ホームページ 2020年10月29日参照)

相撲発祥の地であるなどの特徴

もある。

また葛城市は、奈良県の北西部に位置し大阪府と隣接しており、鉄道は近鉄南大阪線、近鉄御所線、JRと歌山線などにより天王寺や奈良市内、京都方面と結ばれていたり、南阪奈道路や国道165、166、168号が通っていたりと、電車でも自動車でも比較アクセスしやすい（図1）。



図1 葛城市へのアクセスマップ
(葛城市ホームページ 2020年10月13日参照)

3. 葛城市の人口統計

葛城市の総人口は平成16年10月で35,513人、令和2年10月現在37,485人とこの16年で微増している。しかし、図2より、葛城市の70～79歳の人口は平成16年では男女平均1,500人だったのに対し、令和2年には男女平均2,500人と増えていることがわかり、高齢化が進んでいると言える。さらに表1を見ると分かる

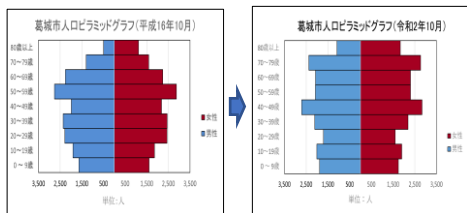


図2 平成16年と令和2年の人口ピラミッド比較
(葛城市ホームページ 2020年10月13日参照)

ように過疎化が進んでいる地域とそうでない地域の差が大きく人口分布に偏りがある。例えば、一番人口の多い北花内地区は、地区内には主要駅であるJR大和新庄駅があり、また近鉄新庄駅も徒歩圏内であり国道168

号も通っている。また一番人口の少ない山口地区は、地区面積が市内で最も小さいということもあるが、主要駅・主要道路から最も離れた場所に位置している。このように葛城市は、地区の立地によって人口に偏りが見られる。この課題を解決するために、主要駅や主要道路から離れた地域にある観光資源を活かし、観光を通して人々を呼び込むことが考えられる。地域に関わる人を、住民だけでなく、県外などから訪れた観光客や地域の魅力を知っている関係人口として増やしていくことで、この課題にアプローチをかけることができる。

表1 葛城市地区ごとの人口及び世帯数

| 葛城市 住民基本台帳人口及び世帯数(外国籍含む) | | | | |
|--------------------------|-----------|--------|--------|--------|
| 地区名 | 令和2年10月1日 | | | 世帯数 |
| | 男 | 女 | 計 | |
| 北花内 | 1,955 | 2,145 | 4,100 | 1,688 |
| 定田 | 1,560 | 1,658 | 3,218 | 1,350 |
| 長尾 | 1,171 | 1,295 | 2,466 | 991 |
| 八川 | 1,039 | 1,175 | 2,214 | 854 |
| 當麻 | 946 | 1,003 | 1,949 | 735 |
| 尺土 | 875 | 959 | 1,834 | 794 |
| 忍海 | 778 | 842 | 1,620 | 693 |
| 竹内 | 754 | 765 | 1,519 | 549 |
| 南道徳 | 603 | 663 | 1,266 | 472 |
| 兵家 | 576 | 560 | 1,136 | 484 |
| 東壺 | 554 | 574 | 1,128 | 397 |
| 林堂 | 515 | 540 | 1,055 | 410 |
| 新庄 | 406 | 477 | 883 | 378 |
| 葛木 | 421 | 459 | 880 | 323 |
| 加守 | 406 | 451 | 857 | 379 |
| 南花内 | 386 | 453 | 839 | 344 |
| 楮本 | 399 | 379 | 778 | 311 |
| 笹堂 | 361 | 397 | 758 | 314 |
| 藤根 | 356 | 372 | 728 | 297 |
| 木戸 | 334 | 377 | 711 | 262 |
| 南今市 | 336 | 373 | 709 | 286 |
| 今在家 | 308 | 319 | 627 | 256 |
| 北道徳 | 301 | 303 | 604 | 202 |
| 太田 | 264 | 283 | 547 | 225 |
| 寺口 | 253 | 270 | 523 | 250 |
| 西辻 | 229 | 257 | 486 | 181 |
| 中戸 | 195 | 200 | 395 | 162 |
| 辨之庄 | 183 | 201 | 384 | 132 |
| 西堂 | 180 | 197 | 377 | 135 |
| 染野 | 170 | 189 | 359 | 139 |
| 薫 | 171 | 163 | 334 | 146 |
| 新在家 | 152 | 172 | 324 | 131 |
| 大屋 | 142 | 151 | 293 | 119 |
| 藤田 | 151 | 134 | 285 | 106 |
| 新町 | 111 | 129 | 240 | 85 |
| 新村 | 112 | 118 | 230 | 97 |
| 大畑 | 96 | 113 | 209 | 87 |
| 南藤井 | 88 | 98 | 186 | 70 |
| 平岡 | 54 | 102 | 156 | 91 |
| 笛吹 | 45 | 54 | 99 | 47 |
| 山田 | 32 | 50 | 82 | 32 |
| 梅堂 | 29 | 28 | 57 | 24 |
| 山口 | 20 | 20 | 40 | 18 |
| 合計 | 18,017 | 19,468 | 37,485 | 15,044 |

(葛城市ホームページ 2020年10月13日参照)

*参考資料

葛城市ホームページ (<http://www.city.katsuragi.nara.jp/>) 2020年10月13日参照

第6回葛城山麓ウォークアンケート集計結果(2019) 2020年11月3日参照

*参考文献

フィリップ・コトラー, ジョン・ボーエン, ジェームス・マーキンス, (2003), 『コトラーのホスピタリティ&ツーリズム・マーケティング』ピアソン・エデュケーション

4. 葛城市における観光

葛城市は、国宝や重要文化財、日本最古の官道、相撲発祥の地であるなど観光資源となりうるものがあり、都心からのアクセスも比較的良好という面から観光で地域活性化を行ってきた。その具体的な取り組みとして葛城市はこれまで、公衆無線LANサービス『相撲



図3 竹内街道イベント
(葛城市ホームページ 2020年10月13日参照)

Wi-Fi』という観光客の利便性向上や災害時の通信手段の確保を目的に、スマートフォンやタブレットを公衆無線LANに接続して無料で利用できるサービスを行ったり、竹内街道・横大路沿道の地域で行われる季節の祭りや、ワインを楽しむ大人向けのイベント、ぶどう狩りや七夕祭りなど子供も楽しめるイベント、ワークショップやスタンプラリーなどもあり試食できる特産物がブースに並ぶ『沿道うまいもん市』など、各ターゲットに合わせたイベントの情報をホームページに掲載して発信したりすることで地域活性化を図っている。

しかし歴史的建造物やイベントだけが観光資源になりうるわけではない。コトラー他(2003)は、他の観光地とは違う特徴を見出し、いわゆる差別化を図ることが重要だとしている。差別化は様々な面から図ることができるが、葛城市は立地とイメージという面から差別化が図れる。葛城市は広大な自然を有しており、また大阪府と隣接しているが天王寺から電車で約45分、自動車では約35分かかる場所に立地している。これにより、都心から少し離れて自然の中で休暇を過ごせる「癒し」のイメージを作り出し、その部分で他の観光地と差別化を図ることができる。また、自然を有しているのは主要駅や主要道路がない地域が多いため、差別化が成功し観光客を呼び込むことができれば関係人口を増加させ、各地域で人口に偏りがあるという問題の解決に繋げることが期待できる。

自然や癒しというイメージを活かした観光の取り組みとして、葛城山麓ウォークが挙げられる。この活動はソフトインフラに着目し、その地域の人的資源や自然環境を利用して地域活性化を目指すものである。

5. 葛城山麓ウォークに着目する理由と課題

本年(2020年)は新型コロナウイルスの影響により開催が中止されたが、毎年葛城山麓地域(カンラギセブン)で葛城山麓ウォークが行われており、本ゼミナールもその活動に参加している。私たちがこの活動に着目した理由として、葛城市の中でも特に過疎化が進んでいる地域であり、その中で、魅力の発信と併せて、地域活性化につながる方策を実験する機会として開催しているからである。また、葛城市にあるような広大な自然を観光開発としてこれから作り出すには莫大な時間と労力がかかるが、葛城市には因らざるもその資源があるため、それを利用することが望ましい。さらに、このイベントは各7地域を歩きそれぞれの地点で五感で魅力を感じることで、体験型観光の利点も有している。



図4 葛城山麓ウォークのチラシ
(葛城山麓地域協議会ホームページ 2020年10月21日参照)

他方、葛城山麓ウォークや葛城市自体の、地域外への認知度向上という課題もある。令和元年度葛城山麓ウォーク参加者に対するアンケートによると、参加者521人のうちアンケートに回答してくれた336人の居住地は、葛城市内が44%、奈良県内が40%、奈良県外が14%、無回答が2%であった。県外者を多く呼び込むための取り組みを行うことも、今後重要となってくる。

6. まとめと今後の活動内容

葛城市の課題として、高齢化問題と、市外からの葛城市の認知度の低さ、人口分布の偏り、地域活性化のためにやっているイベントを周知できていないということが挙げられる。これらを改善していくためには、まず葛城市とそこで行っているイベントについて広めることから始め、葛城市に来てもらったイベントに参加してもらったりと、関係人口を増やしていく必要がある。その一歩として、山麓ウォークやイベントの周知活動を行う。また葛城市の存在と活動の周知を目的に、それぞれの地域のPR動画を作成する活動を行っている。このように、私たち宮城ゼミナールは観光の視点から地域活性化を目指し活動していく。